



第 26 号
平成 18 年
1 月 発行

謹賀新年



謹んで新春の
およろこびを申し上げます

平成十八年 元旦



「日本人の顔つき」を読んで

社会福祉法人りんさく福祉会
理事長 須田 滉

二〇〇六年の年頭に当たりご挨拶を申し上げます。本年も「望洋荘」を何卒よろしくお願い申し上げます。さて、今回は私達の笑顔（顔つき）についてお話をさせて頂ければと思います。

戦前戦後のまだ高度成長以前の日本には「たとえ継ぎ接ぎの当たった破れ着物を身にもまわっていても、品性憤ましく、容姿に風情というものがあり、小さな子においておいでをする時の様なもの優しい手つきや声、顔貌」がありました。長く医師としての仕事をしていると、外来診療でお目にかかる患者さんそれぞれの素晴らしい風貌を発見致します。その顔にそれぞれの歴史が刻まれている様に思えてなりません。

その様な思いを強くしていた時、私の愛読している中高年向き雑誌（日経「マスターズ」）の中で「午後のテラス」という随筆欄に立川昭二氏の興味ある文を見つけ

痛く感動しました。その中で取り上げている文に、明治二十年、東京に滞在していたイギリスの外交官ウィリアム・アストンは「日本の街を歩くのが好きだ。逢う人が男も女も、年寄りも子供も、みんな楽しそうな顔つきをしている」と。また、戦前昭和の東京に居たイギリス外交官夫人のキャサリン・サムソンも「日本の老人は、ほかの国の老人に比べて気品があります。素敵な老人に出会わない日はないと言っていていくらいです。突き出た頬骨をきりつと被つやつやつとした小麦色の肌、優しい眼、太るどころか反対に細くなつていく体、穏やかな雰囲気を持つ日本の老人は、腕の立つ画家の立派なモデルになります」と称賛。

しかし、さきのアストン氏は言葉を続けて、「東京はいまに綺麗になるでしょう。しかし、その時になつても、街を歩く人達が今のように楽しそうであるかどうか。その点は私にも解らない」と語り、またサムソン氏も「今の若い人達が年をとつた時も、そうであるとは限りません」と付け加えたとのこと。

テレビをつけるやいなや、目に飛び込んでくる日本人の下劣で野卑な表情、しぐさ、声。いつから、かくも下品な姿になつたのでしょうか。作家の司馬遼太郎氏も、最近の日本人の顔は骨格がなく卑しくなつたと嘆き語っていました。本当にアストンとサムソン両氏の危惧は的中してしまつたのでしょうか。そうだとしたら、誠に嘆かわしいことですね。

医療人として、福祉の場に接する機会が多い今日、在宅介護、訪問看護「診療」、福祉施設のおられる長寿者や障害者に接した時、彼らは一様に「楽しそうな顔つき」「穏やかな雰囲気」「品性つつましく、もの優しい手つきや声」をしており、出会つて何故かホッとします。

何故なのでしょう。おそらく現在の欲望と競争の社会から距離を置いた人達は、かつての「破れ着物を身にもまわっていた」日本人の心で生きているからなのではないでしょうか。

望洋荘に働く職員も、ひと時でも良い顔つきを取り戻すために、入所されている皆さんと顔を見つめ合い語りあつてみて下さい。きっと知性あふれる素晴らしい心を持った容姿に変わることを疑いなしです。

落語家「柳亭市馬」 師匠来荘

十二月二日（金）落語家の柳亭 市馬師匠がお越し下さり、楽しい小話と歌謡浪曲を披露下さいました。また最後に忠臣蔵でお馴染みの「俵屋玄蕃」を踊りながら熱唱頂きました。入居者の皆様も懐かしい三波春夫の曲に、手拍子をしたり、歌を口ずさんだりと大喜びの様子でした。

柳亭市馬師匠お忙しい所、本当にありがとうございました。またいわきにお越しの際は、お立ち寄り下さる様お願い致します。

「クリスマス会」全ユニット合同

十二月二五日（日）午前と午後に分かれてクリスマス会を開催致しました。職員一〇名が変装したサンタクロースが、入居者の皆様ひとりひとりプレゼントを手渡ししました。その後、ケーキを食べながら余興を楽しんで頂きました。今回入居者様へのプレゼントは、入居者様毎に担当職員が考えて購入した品々で毛糸の帽子・マフラーなどがあり、入居者様もとても気に入って頂き、毎日室内でも使っている方もいらっしゃるようです。



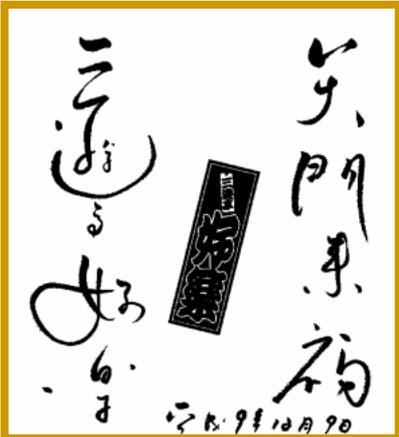
「いわき寄席」出演者の色紙集から

「いわき寄席」出演者の直筆の色紙を紹介致します。今回は、第五十回を記念して「いわき寄席」に起こし頂きました三遊亭好楽師匠の作品を紹介致します。好楽師匠は「笑点」などテレビでご活躍しており、皆様もご存知の事と思います。

三遊亭 好楽師匠の作品です。

第五〇回記念いわき寄席 平成九年十二月九日

肝つぶし 藪入り



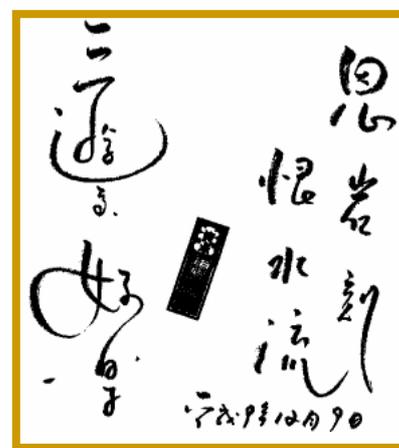
三遊亭 好楽師匠
(第 50 回いわき寄席 H9.12.9)
笑 門 来 福



三遊亭 好楽師匠
(第 50 回いわき寄席 H9.12.9)
笑家は
笑われるまでに
さんざ泣き



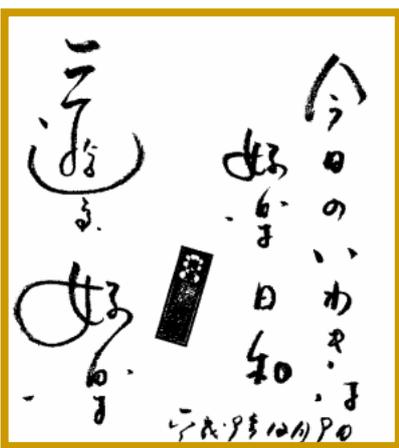
三遊亭 好楽師匠
(第 50 回いわき寄席 H9.12.9)
一 笑 懸 命



三遊亭 好楽師匠
(第 50 回いわき寄席 H9.12.9)
恩岩刻
恨水流



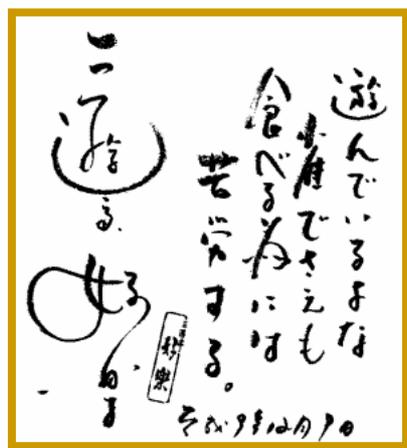
三遊亭 好楽師匠
(第 50 回いわき寄席 H9.12.9)
一 期 一 会



三遊亭 好楽師匠
(第 50 回いわき寄席 H9.12.9)
今日のいわきは
好楽日和



三遊亭 好楽師匠
(第 50 回いわき寄席 H9.12.9)
人生に
近道なし



三遊亭 好楽師匠
(第 50 回いわき寄席 H9.12.9)
遊んでいるよなも
雀は食べる為には
苦勞する

新年を迎えて 「新年の抱負」



今年の目標

施設長 吉田 裕子



新年 おめでとございます。

二〇〇六年も穏やかに明けました。望洋荘も三度目の春を迎えるにあたり今年の目標は、笑顔かな？ 『笑顔であいさつ』『笑顔で接する』にしようと思いましたが。小さな集団（ユニット）のケアが出来る当施設では、一人一人の顔がまじかに見られ、お互いがよくわかるというとても良い面を生かして欲しいですね。入居者様は職員と朝（或いは夕方に）顔を合わせた時にその顔つきに反応してしまいます。笑顔で「おはようございます。」と元氣に入って来たなら、「アアー今日も元氣で明るい一日が……」と誰もが思います。笑顔は安心料・安定剤と同じなのです。

二つ目は、ユニット・ケアとは何か？もう一度みんなで勉強したいですね。入所者様の心身状態は様々です。自立に近い方、ほとんど全介助の方など。でも感情は充分生きています。何を求めているのか、何なら出来るのか、何をして欲しいのか、を読める人に職員はならなければならないし、それが出来る施設なのです。自分も目標を立て自分も成長しなければ、介護のプロフェッショナルにはなれない。今年はそんな年にしたいと年頭に思いました。

「成人式」を迎えました。

新成人となって私の目標

介護士 新妻 茉依

私は高校を卒業してすぐに、望洋荘で介護職として勤め、あっという間に二年が経ってしまいました。今年成人式を迎えますが、今までは、家族に甘えてばかりでしたので、これからは、料理など家事を勉強して、家族のみんなに美味しい料理を作ったり、洗濯や掃除なども手伝って親の負担をへらしてあげたいと思います。まだまだ未熟者ですが、これからも明るく笑顔で頑張って行きます。よろしくお願い致します。

今月の言葉その（倫理研究所編纂語集から）

物は愛する人のために働く

時々周囲の物に語りかけてみるといい。「元氣かい？よろしく頼むよ」。時には、その声に耳を傾けてみる。「俺と一緒に満足してるかい」。果たして何と答えるだろう。

編集後記

『望洋荘』便り

平成十八年一月一日発行

発行所 いわき市

平豊間字合磯三十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55 7373

FAX (0246) 55 7255